

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4070502242		
法人名	医療法人 心愛		
事業所名	グループホーム ドレミ		
所在地 (電話番号)	〒800-0213 福岡県北九州市小倉南区中曽根4丁目14-6 (電話) 093-474-4122		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年2月27日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 14名・非常勤 6名・常勤換算	11.2 名

(2) 建物概要

建物形態	単独型	築 5年目
建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500~42,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年2月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山崎リゾートクリニック ・北九州総合病院 ・小倉蒲生病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の四季折々の景観が、見渡せる自然環境の中の広い敷地に、利用者と職員が家族の一員として暮らしているグループホーム「ドレミ」がある。リビングルームは明るい雰囲気ので広々として、利用者と職員はゲームをしたり、フラダンス、大正琴等、地域のボランティアと、賑やかにリズムをとりながら楽しんでいる。母体が医療法人であり、職員は利用者の日々の心身の状態を、正確に把握し、健康管理は万全である。管理栄養士のチェックした食事メニューは味、盛り付けにも工夫を凝らし、利用者の食欲を増進し、栄養バランスのとれた食事である。家族との連絡は、利用者一人ひとり内容の違う「ふれあい通信」を毎月家族の元に発行し、家族は、ホームでの様子が分かるので安心している。運営推進会議メンバーの協力で、地域の運動会や敬老会に地域の一員として参加している。また、法人所有の小型バスで利用者と家族、職員は「花見」「買い物」「ドライブ」等に出かけ、日々の暮らしにメリハリをつけ、利用者の生きがいに繋げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の調査は改善点が5件あったが、4件は管理者や職員全員で努力した結果、改善出来ている。今回は「家族だけで話せる家族会をつくり、家族の意見、苦情が出やすい環境にし、ホーム運営に反映していく」「人権教育の研修を受講し、啓発活動に繋げていく」「地域住民の協力を得て、夜間想定避難訓練と非常食、飲料水、毛布の備蓄」等の努力が望まれる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は会議で話し合い、介護計画作成者と管理者で取りまとめて作成した。今後は管理者が職員に自己評価の意義を説明し、理解してもらい、自己評価票を全員で作成し、評価結果が出たら、職員同士回覧し、改善に向けて取り組んでいくことを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議は家族代表、地区自治会長、副会長、民生・児童委員、地域包括支援センター職員、医療法人室長、ホーム管理者で構成し、活発な意見交換の場で、会議の内容を記録するなど、中身のある会議である。今後は会議を2ヶ月毎に開催し、ホーム運営を推進していく重要な会議として、発展させていくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 相談、苦情受付窓口を明示し、意見箱を玄関に設置し、家族の要望をいつでも投函してもらえるようにしているが、苦情は出てこない。苦情を出しづらい家族の、心情を察し、家族だけで話せる家族会を設立し、家族の声が、気軽にホームに届けられる体制が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区自治会長、副会長、民生・児童委員が運営推進会議のメンバーとして、ホームに協力を得ている。また、地区の運動会や祭り、敬老会等にも案内を頂き、利用者と職員は積極的に参加し、町内会に加入し、地域の一員として、交流を図っている。今後はホーム行事にも地区の方々に案内を出して、地域と連携していくことを期待する。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的で温かい雰囲気」「人としての尊厳」「生きがい・自立」「安全・安心な生活」「社会的交流の確保」という5つの理念を柱に、職員は利用者がその人らしく暮らし続けることを支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、職員は毎月1回チェック表(理念に基づいた仕事が達成出来たか、達成出来なかったかを職員一人ひとりが自己評価する)を作成し、理念の実践に取り組めたかを振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の清掃活動にも参加している。「大正琴」や「フラダンス」のボランティアによる定期的な訪問があり、利用者も楽しみにしている。また、近所の方がホームの玄関前に大根や白菜を置いていってくれたり、自宅で使わなくなった雛人形を持参してくれるなど、地域の人々との交流も始まっている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で話し合い、管理者と計画作成者で作成している。自己評価の意義を理解している管理者は、職員に説明し、理解してもらえるよう取組に努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族の代表、自治会長、副会長、地域包括支援センター職員、民生・児童委員、他事業所管理者、当事業所管理者が出席し、ホームの現状報告などを行い、出席者からは、ホームに対する意見などが活発に出され、サービスの向上に活かしている。今後は、定期的な開催の実現を目指している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは、相談や情報収集をしながら交流を図っている。今後は、市の介護相談の講師を引き受けたり、市職員の研修の受け入れなど、市と連携を取りながらサービスの質の向上に取り組むことを目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	管理者や職員は制度については学び理解している。また、パンフレットなどの資料も準備し、利用者や家族にはいつでも説明できる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用者一人ひとり個別の「ふれあい通信」を利用者の家族に送付し、その月の健康状態、生活状況、行事などを連絡している。また、預かり金の状況も報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているがなかなか意見は出ない。	○	利用者の介護を託している家族の気持ちを考えて、家族だけで意見を出し合える家族会を立ち上げ、意見や苦情などをホームの運営に活かしていくことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ半年間は職員の異動はなく、馴染みの関係が出来る。オーナーは、職員が生き生きと働ける環境を目指して、いろいろな面で配慮し、職員の離職を防ぐ努力をしている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用にあたっては、性別、年齢などの制限はなく、職員はそれぞれの能力を発揮し、生き生きと働いている。また、職員の希望に応じた勤務表の作成をし、職員の社会参加や自己実現に向けて配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	申し送り時などに、管理者が職員に、人権に関する話をしている。		人権教育啓発活動を、実現するために外部研修に参加し、内部研修会を実施して、職員全員が理解し共有していくことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会に参加し、研修会参加は出勤扱いにするなど、職員が研修会に参加しやすいよう配慮している。今後は、職員の経験年数、習熟度を考慮して職員全員が研修計画に沿って参加できることを目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、同業者との交流を図り、情報交換をしている。今後は、職員の相互訪問など、さらなる交流を通じて介護サービスの質の向上を考えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族がホームの見学、体験入居、または、利用者宅への訪問などを通じて、利用者がホームの雰囲気に馴染み納得して入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からは、野菜作りを教わったり、昔の風習を学んだり、一緒に過ごしながら支え合う関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や気付きノートを活用して、利用者の状況を把握し、利用者一人ひとりの思いや希望の実現を目指している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見を聴き、短期、長期目標を設定し、話し合いながら介護計画を作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に介護計画の見直しを実施している。また、状態の変化に応じて家族と相談しながら、その都度見直しを行い、介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、病院への送迎、理・美容院の付き添い、散歩や買い物などの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人のため、同法人の医療機関が、かかりつけ医となっている利用者が多く、24時間、利用者の健康管理体制が出来ている。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて、利用者、家族、かかりつけ医、看護師、理学療法士、訪問看護師などと、連絡を取りながら利用者の状態を共有し、本人や家族の望む方向を検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は事務所保管庫で管理し、個人情報の取り扱いには十分注意している。また、利用者が自分の意志で鍵がかけられる居室となっており、プライバシーが守られ、利用者本位の暮らしが出来よう支援している。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の当日の心身の状態に合わせて、食事や入浴など利用者一人ひとりのペースを大切に、生活できるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嚥下状態、咀嚼、好みなどを考慮し、新鮮な食材(近所からの差し入れも含め)で、調理の得意な職員によって、とっても美味しい食事が提供されている。また、利用者と職員と一緒に下ごしらえをしたり、同じテーブルで会話をしながらの楽しそうな食事風景である。		
26	57	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	シャワー浴、機械浴、一般浴など、利用者一人ひとりの状態と希望に合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の利用者に対しては、家族の協力を得ながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの出来る力に応じて、洗濯物たため、掃除、下膳、畑仕事など、役割ごとをしてもらったり、また、毎月季節感溢れる貼り絵を制作したり、カラオケなど、楽しみごとや気晴らしの支援にも取り組んでいる。調査に伺った日は、お雛様の貼り絵に楽しく取り組む利用者の姿が見られた。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前には、鯉の泳ぐ川が流れ、畑が広がり、絶好の散歩コースとなっている。また、お天気の良い日には食事をお弁当箱に詰めて外で食べたり、バーベキューをしたり、気持ちよく外気に触れられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員全員は、身体拘束に対するマニュアルを作り、鍵をかけることの弊害を十分に理解しており、鍵をかけないケアを実践している。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施している。地域の人の協力を得られるよう働きかけている。	○	今後は、地域の方の協力を得て、一緒に夜間を想定した避難訓練を行うことが望まれる。また、災害に備え、非常用食料、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士から栄養面でのアドバイスをもらい、バランスよく食事が摂れるように支援している。また、栄養摂取や水分摂取量についても個別にチェックし把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると正面に近所の方から譲り受けた雛人形が飾られ、壁には利用者が毎月取り組んでいる季節に合せた貼り絵が飾られ、利用者が五感を感じてもらえるように工夫している。天井が高く、明り取りからは自然光が射し込み室内は明るい。利用者一人ひとりの居室の入り口には、のれんが掛けられ家庭的な温かみを添えている。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、窓からは広々とした畑が見渡せ明るい室内となっている。利用者は、使い慣れたタンスなど馴染みの物を持ち込み、花や写真を飾るなど居心地よく過ごせるよう工夫している。		